

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	国語 A	国語 B
本校	75	67
広島県	73	59
全国	70.7	54.7

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査結果から、明らかになった課題は

①物語文の叙述に即した読み取りが不十分で、具体的な叙述を基に自分の考えをもつこと。②必要な情報を取り出し、条件に合わせて書くことであった。そこで「読むこと」と「書くこと」の学習において、具体的な叙述を基に、理由を明確にして、自分の考えを話したり、書いたりする活動や、教科書のモデル文の意図や文章構成について指導し、集めた情報を関連づけて、条件に合わせて書く練習をドリルタイム等を活用して行った。その結果、「目的に応じて読む」は+24.4、「自分の考えを明確にしながらか読む」は+21.3 となった。しかし、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」や「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」が課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

「主述の関係などに注意して文を正しく書く（36.4%）」問題文の読み取りが不十分で条件に合う文章が書けていないという課題がある。

重点課題

- ・「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」
- ・「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」
- ・「主述の関係などに注意して文を正しく書く」

標準学力調査に向けた重点取組

【全体研修】

- ・全教職員で、これまでの「基礎・基本」定着状況調査、全国学力・学習状況調査、標準学力調査の問題を解き、分析し、本校の課題について共通理解を図る。

【授業改善】

- ・「読むこと」の学習において、引き続き具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えを話したり書いたりする活動を重点的に行う。
- ・「書くこと」の学習において、目的や意図に応じて共通点や相違点に着目して比べたりまとめたりして、条件に合わせて文章を書く練習をする。
- ・ドリルタイムなどを活用し、物語文の読み取り問題を行う。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
校内研修等 (職員)		<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で、正答率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・授業改善の視点についての共通理解を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査について自校採点を行い、課題について分析し、改善計画をたて、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の成果と課題を明らかにし、次年度の授業改善に生かす。
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読み取りにおいて、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えを話したり書いたりする活動を重点的に行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの学習において、目的や意図に応じて共通点や相違点に着目して比べたりまとめたりして、条件に合わせて文章を書く練習をする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【見取】 昨年度の標準学力調査を 全学年で実施</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【検証】 標準学力調査の正答率 全国平均以上</div>		<ul style="list-style-type: none"> ・書くことの学習において、目的や意図に応じて共通点や相違点に着目して比べたりまとめたりして、条件に合わせて文章を書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査において、正答率の低かった問題に取り組む。
<p>重点課題から選定した問題・物語文の読み取りの問題に繰り返し取り組む</p>									
<p>標準学力調査において重点課題となった問題に繰り返し取り組む</p>									

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	算数A	算数B
本校	62	56
広島県	66	54
全国	63	51.5

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査から明らかになった課題は、①事象の解釈と根拠の説明 ②二つの折れ線グラフの関連づけ ③割合 であった。そこで、以下のことに取り組んだ。

- ・算数用語や式・言葉を使って、根拠を自分の言葉で説明させる。
- ・授業で、式や数値の意味を説明させる機会を増やすとともに、規則的に変化する数値への関心を高める。
- ・割合の学習では、基準量・比較量・割合の関係を表や図に表わしながら、繰り返しおさえる。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味 (40.9%)」「直径と円周の長さの関係の理解 (36.4%)」「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断すること (4.5%)」

重点課題

- ・単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味が理解できていない。
除法の割る数が単位量当たりの量になっていることが理解できていない。
- ・直径と円周の長さの関係について理解できていない。
伴って変わる数量の事象を解釈したり、式や言葉を使って説明したりすることができない。
- ・棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができない。
棒グラフで示された数量と帯グラフで示された割合を関連づけて理解することができない。

標準学力調査に向けた重点取組

【全体研修】

- ・全教職員で、これまでの「基礎・基本」定着状況調査、全国学力・学習状況調査、標準学力調査の問題を解き、分析し、本校の課題について共通理解を図る。

【授業改善】

- ・数直線を使って、問題を整理して立式させ、除法の意味や割る数・割られる数の関係を理解させる。
- ・円周を求める公式などの学習では、公式がどのように導き出されたのかを、図や式・言葉を使って説明させ、公式の意味を理解させる。また、一方の量が変化したら、求める量がどのように変化していくかについて表を使って確認する。
- ・もとにする量・比べる量と割合の関係を、帯グラフや円グラフを読んだり書いたりすることにより、理解させる。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)		・全職員で問題を解き、正答率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・改善計画をもとに、2学期から全職員で取り組む内容を共有する ・ドリルタイムについて確認する。	・ドリルタイムの進捗状況を確認する。	・冬季休業中の課題について確認を行う。	・昨年度の標準学力調査を実施し、課題を把握し、改善計画をたて、実施する。		・標準学力調査について自校採点を行い、課題について分析し、改善計画をたて、実施する。	・取組の成果と課題を明らかにし、次年度の授業改善に生かす。
児童への取組		・ドリルタイムで学び直しをさせる。 ・単元末に学力補充を行う。			【見取り】 昨年度の標準学力調査を全学年で実施	【検証】 標準学力調査の正答率 全国平均以上	・学級全体で、定着していない問題に取り組む。ドリルタイムにて補充	・標準学力調査において、正答率の低かった問題に取り組む。

重点課題から選定した問題に取り組む。

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	理科
本校	66
広島県	63
全国	63.3

本年度の結果について

○取組の成果と課題
 昨年度の各種学力調査の結果から、①「適切な検証方法を選択する」②「仮説に基づいた実験結果を予想する」など、科学的な思考・表現を問う問題、③「結露について正しく説明している文章を選ぶ」など自然現象についての知識・理解に課題があることが明らかになった。
 そこで、次の2点に取り組んだ。
 1 科学的な思考・表現や自然現象についての知識・理解を定着させるために、実験の予想や実験方法、結果を理科用語を使って説明をさせるようにした。その際に、キーワードをカード化するなど視覚的に分かりやすくした。
 2 授業の始めにミニテストを行ったり、重点課題から選定した問題のドリル学習を行ったりと既習事項の定着を図った。
 ○今年度の調査から新たに明らかになった課題
 ①「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適応さきる (36.4%)」②「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる (36.4%)」など、考えたことを言葉で表現することに課題があることが明らかになった。

重点課題

- ・自然事象についての知識・理解や観察・実験の技能は概ね理解しているが、科学的な思考・表現に課題がある。また、記述式の解答が難しい。
- ・科学的な思考を理科の用語を使って説明する力をつける。
- ・食塩を水に溶かしたときの、質量保存を図や言葉で説明することが十分でない。
- ・太陽の動きと光電池の向きなど、複数の事象を関連付けることが難しく、また、状態を理解していても、理科用語を用いて説明することが難しい。

標準学力調査に向けた重点取組

- 【全体研修】
- ・全教職員で全国学力・学習状況調査、標準学力調査の問題を解き、分析し、課題を共通理解する。
- 【授業改善】
- ・実験や観察を、理科用語を使いながら、自分の言葉でまとめるさせる。
- 【取組】
- ・実験や観察の時に、単元を横断した複数の事象を関連付けて、考えたり説明したりする習慣をつける。
- ・毎時間の授業の復習として、用語についての確認を行う。
- ・ドリルタイムで週1回、理科の学習に取り組む。

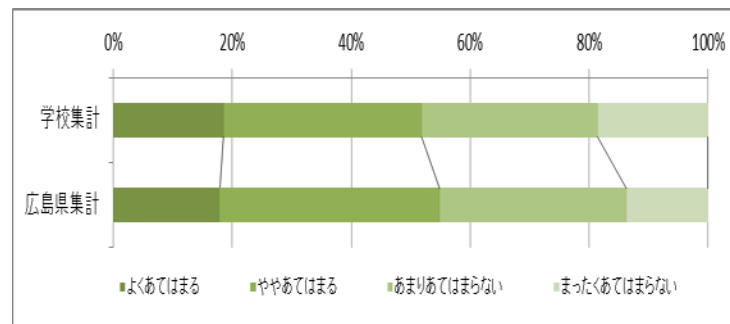
取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
校内研修等 (職員)		・全職員で正答率の低かった問題を解き、誤答分析を行う。 ・改善計画を使い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。			・昨年度の標準学力調査を実施し、課題を把握し、改善策をたて実施する。		・標準学力調査の自校採点を行い、課題について分析し、改善計画をたて、実施する。	・取組の成果と課題を明らかにし、次年度の授業改善に生かす。	
児童への取組		・理科用語を使っての説明をさせていく。			【見取り】 昨年度の標準学力調査を全学年で実施	【検証】 標準学力調査全国平均以上	・学級全体で定着していない問題等に取り組む。	・標準学力調査において、正答率の低かった問題に取り組む。	
			← 重点課題から選定した問題に繰り返し取り組む						
			← 授業の中で、実験や観察の結果を理科用語を使って、言葉で説明する指導の実施						

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

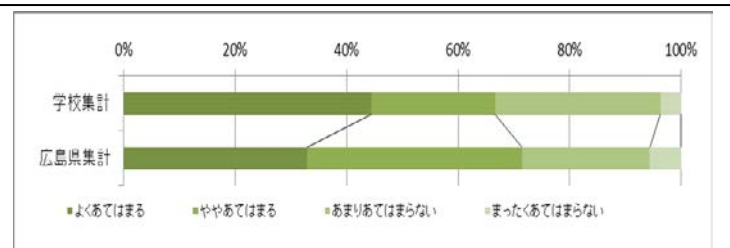
授業の予習するようにしている



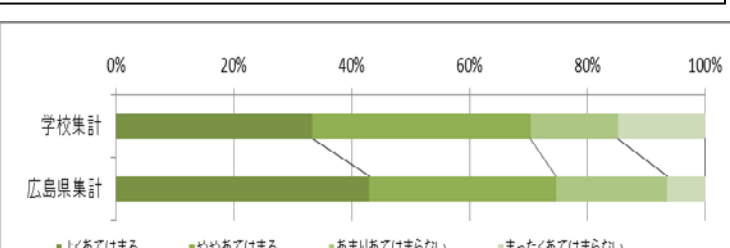
児童生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
学校の授業の予習をするようにしています。 51.9%	自主勉強のノートの課題において予習をすることを計画的に指導する。また、時間割をする時に明日の授業内容について教科書を読むことを指導する。	2 3 4 5 6	75%	児童アンケート調査	2月		

(2) 教科

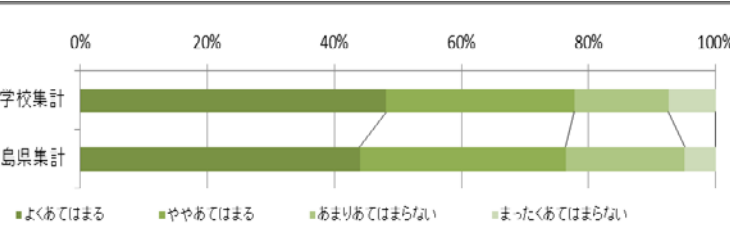
国語・・目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする。



算数・・内容や方法、学習の進みぐあいなどを選んで学習の方がよく分かる。



理科・・自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画をたてる。



	児童の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしています。 66.7%	説明文単元において、自分の考えをもたせ、書いたり話したりする場をもつ。活用問題を練習問題として取り組む。	2 3 4 5 6	75%	児童アンケート調査	2月		
算数	自分の力に合った内容や方法、学習の進みぐあいなどを選んで学習の方がよく分かります。 70.4%	ヒントカードを用意したり課題が早くできた児童に対して次の課題をさせたりするなど、個に応じた学習方法の選択をさせ、できたことに対して肯定的な評価を行う。	1 2 3 4 5 6	75%	児童アンケート調査	2月		
理科	自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画をたてています。 77.8%	観察や実験の前には、個人やグループ、全体で話し合う場面を設定し、友達の意見を参考にさせるなどして、必ず自分の考えや予想をもたせるなど、どのように解決していったらよいのか、見通しをもたせる。	3 4 5 6	80%	児童アンケート調査	2月		